

第2回「釧路湿原川レンジャー学習会」が開催されました

平成23年7月21日（木）に、12名が参加して「第2回釧路湿原川レンジャー学習会」を開催しました。

今回は、しべちゃ水辺の楽校での「釧路川の水質・水生生物調査」と標茶町茅沼での「ヨシの採取・ホザキシモツケの移植」を行いました。

「水質・水生生物調査」について

北海道開発局では、毎年、北海道の主な河川で地域住民の方々と一緒に川の水質状況を調査しています。

この調査は、川の水質を参加者に直接確認して頂き、川に対する関心を高め、頂くことを目的としています。

しべちゃ水辺の楽校にて調査

調査は、4名の班に分かれ救命胴衣を着用し、水温、川底の感触、流速、透視度などの「川の状態観察」、簡易水質試験用具を使用した「簡易水質調査」、川底の石などに付着した生物を採取する「川の水生生物調査」、事前に採捕した「魚類の観察」などを行いました。

調査終了後、各班からの結果報告によりA～Dで評価すると「川の状態観察」の透視度の92cmと川底の感触が少しヌルヌルしていたのでBランクでしたが、他の項目すべてが最も良いAランクとなり、川の環境としては非常に良い結果となりました。また、参加者からは次のような意見がありました。

- ・「魚が餌にしているから、水生生物が多い所は魚も釣れるね」
- ・「河岸が大きな石じゃなく、細かな砂利だと子供達も遊びやすいと思う」



位置図



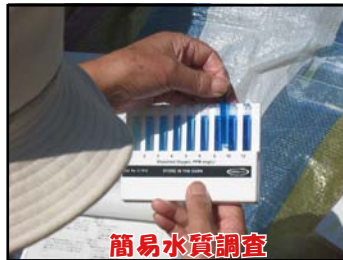
調査した結果を発表



水温調査



透視度調査



簡易水質調査



石に付着した水性生物の調査

人と河川の豊かなふれあいの確保(遊びやすさ)の調査結果

ランク	ゴミの量	透視度 (cm)	川底の感触	水におい
A	川の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	100以上	快適である(素足で入りたいと感じる)	不快でない
B	川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	70以上	不快感がない(履物があれば入りたいと感じる)	
C	川の中や水際にゴミがあって不快である	30以上	不快である(履物をはいても入りたくない)	水に鼻を近づけると不快な臭いを感じる
D	川の中や水際にゴミがあってとても不快である	30未満		水に鼻を近づけるととても不快な臭いを感じる

豊かな生態系の確保(生き物の住みやすさ)の調査結果

ランク	説明	DO (mg/L)	NH ₄ -N (mg/L)	水生生物の生息
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2未満	1.きれいな水 ・ヒラタゲロウ ・ヤマトビケラ 等
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上 7未満	0.2以上 0.5未満	2.少しかたない水 ・コガタシマトビケラ ・オオシマトビケラ 等
C	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好とは言えない	3以上 5未満	0.5以上 2.0未満	3.きたない水 ・ミスムシ ・ヒル 等
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0以上	4.大変きたない水 ・セスジユスリカ ・チョウバエ 等

●過去の「水質・水生生物調査」について

皆さんに調査していただいた過去5年間の結果から釧路川の標茶地区を評価すると、川底の感触など、なかなか改善されていませんが、豊かな生態系が確保されており、河川としては生き物の住みやすい良好な状態を維持していると言えます。

釧路川の水質現況調査結果(標茶地区) ※ () 内の数字は平均値

項目	H23	H22	H21	H20	H19
人 と 河 川 の 豊 か な ふ れ あ い の 確 保	ゴ ミ の 量 A	ゴ ミ の 量 A	ゴ ミ の 量 A	ゴ ミ の 量 A	ゴ ミ の 量 A
	透 視 度 (cm) B (92.3)	透 視 度 (cm) A (103.2)	透 視 度 (cm) C	透 視 度 (cm) A (100.0)	透 視 度 (cm) B (90.2)
	川 底 の 感 触 B	川 底 の 感 触 B	川 底 の 感 触 B	川 底 の 感 触 B	川 底 の 感 触 B
	水 の 臭 い A	水 の 臭 い A	水 の 臭 い A	水 の 臭 い A	水 の 臭 い A
備 考	透視度と川底の感触が少し低い評価	川底の感触が少し低い評価	透視度が低い評価	川底の感触が少し低い評価	透視度と川底の感触が少し低い評価
豊 か な 生 態 系 の 確 保	DO (mg/L) A (8.3)	DO (mg/L) A (7.8)	DO (mg/L) A (9.2)	DO (mg/L) A (8.6)	DO (mg/L) A (8.1)
	NH ₄ -N (mg/L) A (0.19)	NH ₄ -N (mg/L) B (0.32)	NH ₄ -N (mg/L) B (0.26)	NH ₄ -N (mg/L) B (0.30)	NH ₄ -N (mg/L) A (0.17)
	水生生物の生息 A	水生生物の生息 A	水生生物の生息 A	水生生物の生息 A	水生生物の生息 A
備 考	非常に高い評価	高い評価	高い評価	高い評価	非常に高い評価

茅沼でのヨシ採取・ホザキシモツケ移植

●ヨシの採取

午後からは、茅沼地区に移動してヨシ移植会で使用するヨシを採取しました。

ヨシは、イネ科の多年草で北海道から沖縄まで生息しており、湿原環境における代表的な植物で水質浄化機能や生物の生息環境を形成する植物です。ヨシの緑化方法には、種子・地下茎・地上茎を用いた方法がありますが、今回は定着率が高く、時季も適し、比較的容易な地上茎を用いた方法を採用しました。その採取方法は、ヨシの芽が大きくて太い茎の下の方から出やすいため、鎌を使ってなるべく地際で刈って、20本ずつの束にしました。なお、北海道ではヨシの花期が8月過ぎなので、穂の出していない6mm以上の太さのものを採取したため他の草と見分けやすく、また、皆さんが手際よく作業したので短時間に約1600本80束程を採取する事ができました。

採取後は、束ねたものを水の中で横倒しに浸しておくことで約1ヶ月で茎の節の部分から芽が出るので、近くの水の中で浸して養生しました。



箇所図



採取したヨシと記念撮影



ヨシの見分け方を聞く参加者



ヨシを採取



20本ずつヨシを束ねる



採取して束ねたヨシ

●ホザキシモツケの移植

最後に、工事後まだ植生が回復していない裸地にヨシ同様、湿原の植物であるホザキシモツケの挿し木を行いました。今回移植したホザキシモツケは葉からの蒸散量を減らし、活着率を上げるため葉を全体の8割程落としたものを使用しました。

植え方は、鉄筋で深さ30cm程度の穴をあけ、その穴に挿し穂を入れて周りを土で固定し、全部で33本植えました。



移植するための穴あけ



ホザキシモツケの移植

「ヨシ移植会」が行われました

平成23年8月28日に第2回学習会で採取したヨシを使用して、ヨシ移植会が行われました。当日は、地元の高校生や住民の他に釧路湿原川レンジャーからも20名が参加して、養生後1本ずつ小分けした苗の移植と併せて、種子蒔き出しも行いました。

今回植えたヨシが、湿原植生の早期回復に役立つと考えております。



植えた後に記念撮影



養生していたヨシ



小分けしたヨシの苗



ヨシの移植



ヨシの種子蒔き出し